

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1176500872	
法人名	ALSOK介護株式会社	
事業所名	グループホームみんなの家・清河寺	
所在地	埼玉県さいたま市西区清河寺1088-6	
自己評価作成日	令和4年9月18日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.pref.saitama.lg.jp/a0609/jouhou-kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア	
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地	
訪問調査日	令和4年10月7日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念は「一人一人に寄り添い安全・安心に生活できるホームを目指す」です。ご利用者様それぞれの個性を尊重し、今ある能力が引き出せるように、余暇活動や軽作業、役割づくりの充実に取り組んでいます。体操やセルケアをケアプランに取り入れ、自立した生活が継続できるように支援しています。
又、ご利用者様の状態変化等についてはご家族様に都度報告を入れることで情報共有、信頼関係の構築に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鉄筋コンクリート造、3ユニット定員27名のグループホームである。近隣には大宮花の丘農林公園や清河寺公園があって、四季折々の花を楽しむことができる、のどかな環境にある。入居者一人ひとりの個性を尊重し、能力に応じた余暇活動や軽作業、役割づくりに取り組んでいる。「一人ひとりに寄り添い安全、安心に生活できるホームを目指す」という事業所の理念に基づき、家族との信頼関係を構築し、一人ひとりに寄り添ったケアに取り組み、家庭的な雰囲気の中で過ごせるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場会議において理念の共有を目指し、深めるよう努めています。 事業所理念を実行するため、ご利用者様とのコミュニケーション作りや安全な環境保持に努めています。	管理者は、職場会議で理念に沿った年間事業計画書や目標設定を議題にあげて話し合い、意識の共有を図って実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において地域との交流は断絶してしまっている現状に変わりありませんが、春先などコロナの波が落ち着いていた時期に近隣の公園までお花見に行き、公園で地域の方と挨拶を交わすことができました。自治会に加入中です。	従来は地域のイベントに参加したり、ホームの納涼祭に地域の方々を招いたりと交流が出来ていたが、現在はコロナ禍により、中止となっている。自治会に加入しており地域との関係は保っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前、オレンジカフェを予定し地域との繋がりを貢献に努める様に準備を進めていたが、感染症の影響で実行出来ていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染防止策の観点から昨年度に引き続き、今年度に入ってから運営推進会議を開催できておりませんが、運営状況の報告と併せてご意見票を添付し郵送又は地域包括・市町村に持ち込みさせていただきました。	現在はコロナ禍のため、2か月毎に書面での対応をしている。家族、自治会長、市役所、地域包括支援センターに現状や活動の報告を行い、助言や協力を頂いてサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ご利用者様(生活保護受給者)の経済状況や今後の見通しについて市町村担当者と情報共有させていただくことができました。	生活保護受給者のオムツ支給の件で毎月、市を訪問する機会に入居者の様子やケアサービスの取り組みを伝え、良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隔月で身体拘束廃止委員会を開催又、年2回の研修を実施しております。身体拘束のないケアに向けて常に啓発を行っています。	身体拘束委員会を2か月ごとに開催し、身体拘束と虐待防止について学び、全職員が拘束による弊害やリスク等を理解している。また、年2回の研修を通して意識の共有を図り、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	隔月で虐待防止委員会を開催しております。年2回虐待研修も実施しております。職員のストレスケアをはじめとし、日頃からのコミュニケーションを大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者様の権利が守られるように市町村担当者に相談したり、情報を得る事で制度を活用した支援を行う事が出来ています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をかけ、重要事項や契約内容について説明を行っている。最後に質問も伺い理解・納得頂けたことを確認しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年に続き、家族会も開催できておりませんが、お知らせにはご意見票を添付し郵送させていただいたり、日常の電話等でご家族様からご意見を伺う機会もあり、職場会議等を通じて共有を図っています。	従来は運営推進会議及び家族会等で意見交換の機会を持っていたが、コロナ禍で自粛中のため、毎月「家便り」を送付し、2か月毎に日々の生活の様子に報告に加え意見や要望を伺っている。また、玄関にご意見書を備え付け、意見が出しやすい環境に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職場会議・ユニット会議を実施し、職員間での意見交換を行っています。	管理者は、毎月の職場会議やユニット会議で職員の意見を聞いている。ホーム長は日頃からコミュニケーションを図るよう心掛け、話しやすい雰囲気づくりに留意しており、年2回、個別面談を実施し個別の相談に応じる機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員個々の特性を活かし、活躍できる環境作りに努めています。レクの得意な職員・物品管理の得意な職員など、やりがいをもって働けるよう役割作りをしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修の募集要項などを回覧し、参加できるようにしていますが、コロナ禍において参加できていないのが実情です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍において交流できていないのが実情です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前実態調査で知りえた事、入居後の観察から分かった事を職員間で情報共有し、ご利用者様が安心して生活できる環境作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前実態調査ではご本人様よりもご家族様からの要望や困りごとを多く聞き取る事ができます。知り得た情報については、ケアプラン又は職員間で情報共有しケアに反映するよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前実態調査の段階で本人、家族等が必要としている支援を見極め、福祉用具をはじめとし、訪問マッサージやシニアセラピーなど他サービスの利用も含め検討し対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来る事を知り、食器拭きや洗濯物たたみ等の家事を手伝って頂いたり、園芸を手伝って頂き生活への参加を意識して頂けるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の様子を毎月「家便り」としてお届けしています。また変化のあった時には電話連絡等で都度報告し、対応についてのご意見を伺うなど共に本人を支えていく関係が築けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	対面での面会は中止させていただいておりますが、ガラス越しでの面会や電話などは積極的に本人に繋ぐように心がけています。	通常は地域に暮らす馴染みの知人や友人の面会を積極的に受け入れ、継続的な交流が出来るよう支援しているが、コロナ禍の現在、窓越しでの面会や電話対応となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が楽しくコミュニケーションがとれるように職員が仲介し、孤立しない環境作りを行っています。また席の配置にも考慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、気軽に相談頂けるように退居時等にお声掛けしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	伝える事が可能なご利用者様からはお話を伺い、それが困難なご利用者様からは日頃の様子をカンファレンスに掛け、ケアの方向を見出すようにしています。	日々の関わりのなかで本人の言葉や表情等から、思いや意向の把握に努めている。どのように暮らすことが最良なのか、家族と相談し協力を頂きながら日々検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前実態調査で知り得た情報を職員間で共有し、その人らしさを尊重した生活を送って頂ける様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録や申し送り・連絡ノートを活用し、ご利用者様の把握に努め、些細な変化も職員全員が情報共有できる様にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のフロア会議やケアプラン作成の際のカンファレンス等で、ご本人様、ご家族様の意向、気づきやサービス内容の見直し等について職員と話し合い、計画書に反映しています。	本人や家族の要望を伺い、全職員で検討した上で計画を作成している。状況変化の時には話し合いを行い、現状に即した計画に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有するために生活記録のみでなく申し送りや連絡ノート・サービス実施表の記録を用いてご利用者様の把握に努め、カンファレンスを行う事で介護計画の見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍において外部ボランティア等の利用は中断しておりますが、訪問マッサージをはじめとし、訪問理美容やシニアセラピーなど可能な限りでご利用者様のニーズに対応できるよう調整を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において地域内の社寺や公園に散歩する機会が減少しておりますが、毎年社協より敬老の祝い金を頂きますので、敬老会に活用させていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	皮膚科・循環器科・泌尿器科等、往診医以外の専門医への定期通院をご家族様のご協力も得ながら支援しています。	月2回の協力医と歯科医の往診、週1回の歯科衛生士の訪問があり、希望するかかりつけ医の受診には随時対応している。通院は家族対応となっており、診療情報提供を行っているが、状況により職員が対応することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連絡ノートを活用し、ご利用者様お一人お一人の変化や状況を共有し、アドバイスや支援を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医より診療情報提供書を発行していただいたり、入院先の医療連携室と連絡を取り合ったりする事で情報の交換や取得を行い関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に終末期ケアについて説明を行います。重度化が予想される段階で改めて往診医や入院先医師からの意見・ご家族様の要望を尊重し、支援できるように取り組んでいます。	入居契約時に重度化や終末期の在り方について、ホームで対応し得るケアについて十分に説明している。状態変化の時には意向を確認し、職員、医師が連絡を取り合いながら方針を共有し、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、急変時の対応について職員に周知しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い内1回は消防機関による実地指導を受けるようにしています。また緊急時連絡網を備え近隣職員の協力を得られる準備を整えています。	6月に消防署に届出し、入居者、職員が参加の通報避難訓練を行っている。次回は年内に夜間想定をした訓練を予定している。災害時用の水や食料品等を備蓄し、万が一に備えている。	近年自然災害が各地で発生するようになり、地域との協力関係が求められている。近隣の方々の参加が得られるような講習会を開催するなど、訓練の開催方法を工夫することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室の小窓には目隠しをしプライバシーを損ねないようにしています。また、排泄介助の際などは特に留意し対応するようにしています。	一人ひとりの人格を尊重し、周りに配慮した言葉掛けや対応をしている。2ヶ月毎の身体拘束委員会の際に、プライバシーの確保について学んで意識の共有を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	更衣時などには選択肢を準備し、自己決定できるように心がけています。又ペランダで喫茶店形式に飲み物を選んでいただくレクリエーションを実施することがあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お1人お1人の生活ペースを大切に、入浴等もご利用者の意思を伺い実施しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る衣類をご本人様の意向を確認しながら支援することがあります。起床時にはできるだけ髪をとくなど身だしなみには留意しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お1人お1人の咀嚼や嚥下の状態に合わせて形状の対応をしています。「いただきます」「ご馳走様」の声掛けをご利用者様にお願いしています。	カロリー計算された食事を一人ひとりに合った食事形態で提供している。盛り付けは入居者に手伝って頂いている。食事が楽しみになるように手作りおやつの日を設けたりして工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士作成の献立に沿った食事の提供で必要な栄養やカロリーの食事提供を行っています。毎回召上がった量を記録し水分摂取量と共に確認し支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月4回歯科衛生士による口腔ケアを受け、月2回歯科DRの診察を受けています。毎食後の口腔ケアは不足のある時には職員が手伝わせて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄サイクルをきちんと把握し、職員間で共有することで、適切なタイミングでの声かけご支援をさせていただいています。出来る限りトイレでの排泄が続けられるよう支援しています。	個々の習慣や排泄パターンを把握し、一人ひとりに沿った対応を検討している。立位の難しい方には二人で対応している。自尊心に配慮し、さり気なく声掛け誘導し、トイレでの排泄を目標に自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や体操への参加、水分補給を重視し、便秘予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を目標としているが、入浴日を固定せず、ご利用者様の様子を見ながら入浴へのお誘いをしています。	週2回、その日の気分や体調を考慮し、一人ひとりがゆっくり入浴して頂けるよう支援している。拒む方には無理強いをせず、声掛けや時間をずらすなどの工夫をしている。入浴剤やゆず湯など、変化のある楽しい入浴となるように心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共有スペースで過ごされたり、個室で休まれたり各自のペースで過ごして頂いています。職員は施設内の温度・湿度に注意し快適に過ごして頂けるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からのお薬情報を用いて内服薬の内容・目的や期間を確認しています。症状や変化についてはその都度記録し主治医へ伝え指示を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴、趣味嗜好、能力に応じた余暇活動、役割をとおして気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩や中庭、ベランダでの外気浴を楽しんで頂くことがあります。	現在はコロナ禍により外出を制限させて頂いているが、天気の良い日には、近隣や敷地内の広い庭の散歩を楽しんでいる。中庭でおやつを食べたり、外気浴をして気分転換をして頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全ての方ではありませんが、ご家族様とご相談の上、最小限の小銭を所持しておられる方は数名います。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ち込まれているご利用者様がいらっしゃいます。時折ご家族様から着信があり会話を楽しまれています。又施設の電話を使ってご家族様と会話を楽しんでいただくことがあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物には季節感を重視し、温度や湿度を都度調整しながら、快適に過ごせるよう工夫しています。不快音や悪臭が無いよう注意しています。	共有のフロアは明るくゆったりと過ごせるスペースになっており、室温、湿度も適切に管理されている。季節の作品等を飾り、季節感を感じられるように配慮し居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士の相性なども考慮し、席の配置を工夫しています。共有スペースから離れた所にソファを置き一人になれる空間も作っております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使い慣れたタオルケットや時計などを持参していただくことがあります。使い慣れた物がその方にとっての安心感をもたらし、居心地良さを感じて生活できるよう支援しています。	入居時に使い慣れた物や家族写真等の思い出の物を持ち込んで頂いている。また、居室にはエアコン、ベッド、チェスト、クロゼット、洗面台が備付されており、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活動線に物を置いたりせず、トイレの場所が解らない方には案内を表示するなどし、自立した生活の支援となる環境作りに努めています。		